

つながる「思いやり」

十文字中学校 小貫 愛花

私の母は女の手一つで今まで私と二つ上の姉を育ててきてくれた。母子家庭の家は色々なことが免除される。例えば病院でかかるお金が免除されたり、そのお金は税金から代わりに出される。きつとそれがなかったら、母は今より大変だったと思う。だから私は「税金」に深く感謝している。

世の中は税金が高くなるたびに、文句を言い、税金に対してマイナスなイメージを持つ人が多い。でも税金によって助けられている人が多くいるのも事実。私もその一人だ。

私は税金とは思いやりだと思う。自分が払った税金が自分の知らない誰かを救っている。そしてその知らない誰かがまた違う人を救う。そしていつか自分が大変になったときに返ってくる。自覚はないかもしれないが、知らず知らずのうちに人を助けているのだ。つまり社会は無意識の思いやりによって回っているのだ。

私は今まで助けてもらってばかりで、何も返せていないと思う。特に母には迷惑をかけてばかりだ。まだ働く大変さも、税金を払う大変さも分からない。でもいつかは働いて、税金を払うことになる。私は微力ではあると思うけど、自分の払った税金で、世の中の誰かの力になればいいなと思う。

そして日本の税金は日本のためだけに使われているわけではない。日本の税金は外国の学校や病院などの再建に使われるそうだ。私は日本の税金をなぜ外国のために使うのだろうと思った。でもそれはムダなことではないし、とてもいいことなのだと思った。こうすることで国同士の仲を深めることができるし、逆に日本が困ったとき他の国が助けくれたりするそうだ。私はそんな関係がいつまでも続けばいいのになと思う。

私は税金にはたくさんさんのメリットがあるということを知ってもらいたい。だから働いている人はもちろん、私のような、学生も、税の使い道に関心を持ち、負担と給付の関係を考えていくべきだと思う。

今の世の中は少子高齢化などの問題があるけど、そうした問題も考えつつ、世の中が少しずつ良くなっていけばいいと思う。

私は早く大人になりたい。そして母を楽させてあげたい。少しずつ恩返ししていきたいと思う。

税金は人と人、国と国をつなげるおもいやりだ。だからこそ大切に使ってほしいし、ムダな使い方はしてほしくない。正しく使ってほしい。世の中の人々が皆幸せになれるように。それは簡単なことではないと分かっている。でも私はそんな世の中になっただけでいいし、していきたい。とは言っても今の私にできることはそうないだろう。だからこそ今から考えてみようと思う。将来自分に何ができるのかを。時間はたっぷりあるのだから。きつと微力ながらもできることはあるだろうから。じっくり、ゆっくりに答えを探そうと思う。